

第2期 国分寺市公民館運営審議会 平成30年度第14回定例会 要点記録

日時 平成31年2月25日（月） 午後3時00分～午後5時10分

場所 本多公民館 講座室

出席者

■委員 佐藤(一)委員長・田中(英)副委員長・木下委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・松井委員・大内委員・藤原委員・田中(雅)委員（欠席1名）

■職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・増本恋ヶ窪公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・野中本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係（欠席1名）

■傍聴者 なし

1 連絡事項

- (1) 配布資料確認
- (2) 第13回定例会要点記録確認⇒承認

2 報告事項

(1) 国分寺市教育委員会平成31年第1回定例会及び第1回臨時会について
事務局：資料1に基づき説明。

(2) 国分寺市市議会閉会中文教子ども委員会について
事務局：資料2に基づき説明。

(3) 「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日にする法律」に伴う休館について
事務局：資料3に基づき説明。

(4) 予約システム説明会の今後について

事務局：予約システム説明会については、各館の公民館運営サポート会議で協議し、参加者も少なくなってきたことから、公民館全体では終了することにしました。予約システム導入後一定の期間が経ち、利用者の方々も操作については習熟されてきていること、日々窓口で説明させていただいていることなどからと考える。今後の課題としては、顔の見える関係づくりをどう構築していくかである。利用者懇談会や公民館まつりなどを通じて、利用団体同士のつながりや公民館との係わりなど、今後各館の公民館運営サポート会でそのあり方について検討し、各館それぞれ運用の中で工夫しながら進めていきたいと考えている。

3 協議事項

- (1) 諮問「国分寺のまちを学び共に創りだす公民館活動の今後について」

委員長：今回と次回で答申の内容を固める。第1，第2グループが検討してきた内容を確認していきたい。第1グループから願います。

委員：資料5に基づき第1グループの内容を説明。

委員：並木公民館のお囃子は、復活ではなく学びを通じて地域や学校との連携を図るものである。

委員長：サードエイジという新しい言葉を打ち出しているところが見せ場になっている。新しい事業の提案もあり、第1期の答申を受けた形としてもよくできている。両グループともに多世代が交流することの重要性を打ち出している。第1グループの骨子に対し質問や提案を受けて議論したい。

副委員長：前回、過去の5館共催事業として話のあった「五館のつどい」については、「過去にそういうものがあつた」というところにとどめ、新たに5館共催事業を提案することにした。

委員：「五館のつどい」は内容を聞いていると、すでにある利用者同士の交流を図るもの、内向きだったように感じている。今回は未利用者をターゲットにしているので、外に向かってアピールすることを提案していきたい。

事務局：「五館のつどい」は広く市民に参加を呼びかけた事業で、決して内向きだったわけではないが、利用者を中心にした事業ではあつた。

委員長：新機軸として、各館ではなく全市的に取り組むものの意味付けは議論したのか。

副委員長：改めて意味付けの議論はしていないが、すでに音楽を通して5館共同で取り組む「五館ジョイントコンサート」というものがある。これを音楽以外のジャンルに広げていくことを考えている。

委員：「五館ジョイントコンサート」の始まりは、やはり「五館で何かできないか」だった。その結果、音楽が一番都合よかつたというのもある、絵画だと1日では終わらないため、何日か場所を確保することが求められる。テーマを選ぶに当たっては慎重にする必要がある。実現性を持った提案にしていくことが重要なのではないか。

副委員長：あくまでも提案、実際には審議を経て実施することになるから、実現性にこだわる必要はないのではないか。

委員：今回の提案は5館が一堂に会することより、5館の地域性をより活かしていく方がいいという意見。例えばもとまち公民館である講座を実施するとき、市内全域から応募があり、もとまち地域ではない人が当選することで、もとまち地域の住民が漏れてしまう。それではもったいないから、テーマを共通にして複数の館で実施することで、それぞれの地域の人が集まり参加できるのではないかとということ。5館がそれぞれの地域にあるという特性を活かすべきだと考えた。

委員長：広報の仕方もあるが、5館共通で著名な人を招き講演会を行った後、各館でテーマに沿った学習会を行うのも一つの方法である。どのように実現していくかまで踏み込むといい。

副委員長：実行委員会的な機能を公民館運営サポート会議の正副会長の集まりである連絡会に持たせるなど、いろいろな取り組み方がある。実施するために方法を一緒に考えていきたい。

委員長：事務局に丸投げではなく、公民館運営サポート会議や次期公民館運営審議会がフォローして実現していくことを提案してもらいたい。

委員：アンケートについて、「人気のあった講座」などを聞いているが、これはサードエイジに絞ったものなのか。

委員：絞ったものではないが、のちの質問で参加者がサードエイジなのかどうか分析できる。

委員：絞ったものでないのであれば、第2グループでも使えるのではないか。

委員長：資料編として収録して共有した方がいい。

事務局：今の公民館の基礎データとして活用していただけるものであれば、いいのではないかと考える。次回3月4日の定例会を目途に提出したい。

委員：アンケートの項目として「人気のある」とあるが、参加者が多いイコール人気なのか、その辺の意思統一はどうなっているのか。

委員：「人気」という表現に違和感がある。

副委員長：館長の感覚に任せたいと思っている。限定するのではなく、少人数でも参加者が「良かった」と思うものであれば「人気」があった講座であるなど、こういうものが「人気のある講座」というデータが出てくればそういったことも大切にしたいという意図がある。人数だけで「人気」とは言いたくない。

委員：「人気」はあくまでも数でしかないと思う。そういった意図であるならば言葉を変えた方が、正しく伝わると思う。

委員：未利用者への取り込みをテーマにするのであれば、人の集まりを分析する必要もあるのではないか。

委員長：「人気」の理由をコメントで書いてもらえば伝わるのではないか。次につながるとか、利用者の満足感とか。数で測れないところも必要だと思うが、なかなか館長が回答するのは難しい。

委員：「人気」を「反響があった」に変えるというのはどうか

委員：「市民や受講者からの反響」と変えた方がいい。さらにコメントもお願いしたい。

事務局：館長が全ての講座に出ているわけではないので、館の職員の意見も聞いて速やかに回答を作成することでよろしいか

委員：今の意見を受け、いくつか修正したアンケートを改めて館長へ依頼する。

委員長：それでは次に第2グループにお願いしたい。

委員：資料6に基づき第2グループの内容説明。

委員長：中身の濃い議論がされたようだ。子どもと公民館という全国的に見ても非常に意味のあるものになるだろう。

委員：かるたの議論が始まった時に、委員長が「自然が入っていない」と言わ

れたが、どの程度入れていくべきか。

委員長：自然体験学習という軸はここには出てきていない。昔遊びや郷土文化でまとめられている感がある。

委員：かるたを中心にするると答申の文章が膨大な量になる。

委員長：かるたを通して、郷土文化と自然環境というものがあることがわかる。自然環境と子どもになると別の提案になってしまうのか。

委員：議論の最初の頃に、第2グループは提案は多いが、自然学習の観点が入っていないという発言があった。

委員長：第1期の答申が環境を大きく取り上げていたので、環境学習を視野に入れていくべきではないかという話をした。提案が大きすぎるという感がある。農業体験講座はすでに行っているのでも触れてもらいたい。

委員：それは第2グループで取り上げるのか。

委員長：1，2行書き込んでほしい。

委員：野外体験は国分寺市内で行うイメージがない。国分寺市を含めた武蔵野の自然は雑木林や畑など、人が作ってきた自然である。それに崖線の湧水を含めたものを、伝統文化と絡めて自然学習の取り組みに入れてもらうといいのではないか。

委員：小学校ごとに自然学習の取り組みが違いますが、「こくベジ」や崖線の学習の取り組みなどを行っている。

委員：どこの柱に入れるのがよいか。

委員長：コミュニティ・スクールの部分でどうか。

委員：その部分で良いと考える。

委員長：異世代交流としてすでにこういった活動があるということに記載する形でいいのではないか。

委員：第2グループでは、公民館だけでなく学校や児童館などとの連携についての話がでてくる。修正も行いたい。

委員：公民館運営審議会としてかるたを決めていくには無理がある。作成委員を作るというところを提案するまででいいのではないか。

委員：当然ここで提案するものだから、公民館が中心となって作成することになるが、公民館運営審議会が引っ張っていくものではないと思う。

委員長：かるたをどのように作るのかという段階になった時に、全市的に取り組まないとダメになると思う。

委員：全市的な取り組みでないといけない。公民館だけではできないと思う。

委員：かるたを作ることを前提に、作成委員を立ち上げることを提案する。実行するのは公民館。

委員長：答申の内容をどう実現していくかは事務局に検討していただく。公民館運営審議会としては提言にとどめる形でいいのではないか。

委員長：説明の中で質問があった「参加者減少傾向」について、事務局より回答をいただきたい。

- 事務局：公民館では、10年ほど前までは子ども対象の事業にほとんど取り組んでいなかったが、教育委員会として取り組む方向となり、異世代交流や学習室など近年は取り組んできている。どちらかというところから増加していくのではないかという感触がある。
- 事務局：並木公民館の「子どもまつり」では、近年、当日はお客として来館するが、準備する実行委員の子どもが集まりづらくなっている傾向はある。
- 委員長：一般的な傾向として、子どもが忙しくて集まりづらいということはある。公民館としてどう取り組むかということを書ければいいのではないか。国分寺市の状況をしっかり反映してもらいたい。
- 委員：自分が関わる子どものイベントは盛況だと感じている。企画次第ではないか。
- 事務局：参加者としての子どもの数は、ある程度ある。運営側に回る子どもが少なくなっている。掘り起こしが必要と考える。
- 委員：PTAも一緒である。
- 委員：子どもの土日の過ごし方が多様化している。その上で、子どもの数は増えてないので、難しいのではないか。
- 委員：異世代交流のイベントとして「eスポーツ」（エレクトロニックスポーツの略。対戦型などのゲームがスポーツになったもの）を取り入れるという話がワーキンググループで出た。オープンなところでさせるという考え方もある。
- 委員：どんな子どもに育てたいかというコンセプトがないと、ただ公民館に人を集めるというのではどうかと思う。主体的な子どもに育てるための運営委員などの企画が大切だと思う。
- 委員：学校での昔遊びについて、学校長からも話を聞きたい。
- 委員：第五小学校などで地域の人に昔遊びを教わる取り組みもあるようだ。
- 委員：アウトメディアの取り組みについてはどうか。
- 委員長：重要性を取り上げ、否定的にならないように書くのであれば、いいのではないか。小中学生へのスマホの使用について解禁するような話もあるようだ。
- 委員：そういう報道もあるようだが、国分寺市では全く上がっていない。
- 委員：もう少し第2グループの中で話した方がいいのではないか。
- 委員：高齢者には脳トレーニングとして必要とされている。指導ボランティアの要請は来ているが、なり手がいない。
- 委員：今年度、毎年開催している中学生に習うパソコン教室をやめて、スマホ教室にした。
- 委員：中学生が教えているのか。
- 事務局：例年パソコン教室の講師補助として中学生に入ってもらっている。今年度は、初めてパソコンではなく、以前から要望があったスマホの講座を、講師が機械などをすべて用意して実施した。

委員：PTAとしては、スマホは高校からということになっている。

委員：第2グループはもっと議論が必要なようだ

委員長：最後のPTAの話など、全国的に見ても画期的な提案が含まれていると思う。もう少し議論を進めてほしい。

委員：各章の分量はどのぐらいと考えているのか。

委員長：目安として各グループ10ページぐらいがいいのではないかと。事務局からフォント等の指示を出してほしい。

事務局：次回に示させていただきます。

委員長：次回に段取りを確認し、3月25日までに文章化していくスケジュールとしたい。

4 その他

委員長：次回の日程を確認したい。

事務局：次回は3月4日月曜日、午後2時から管内研修を行う。講師は辻浩氏。
そのあと休憩をはさんで定例会を行う。

委員長：以上で第14回定例会を終了する。